

# 周年栽培花き類における主要害虫の発生実態（情報）

農業技術センター

## 〔背景・ねらい〕

周年栽培花き類であるグロリオサおよび宿根アスターはいずれも本県における重要品目であるが、これら2品目はそれぞれ同一ほ場内で周年栽培されることから、薬剤に対し害虫類が急速に抵抗性を発達させやすい環境にある。そのため、グロリオサではミカンキイロアザミウマ、宿根アスターではアザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類による被害が問題となっているが、現地ほ場内における発生実態はほとんどわかっていない。

そこで、周年栽培花き類のグロリオサと宿根アスターの主要な害虫類の発生消長と薬剤感受性を明らかにする。

## 〔技術の内容・特徴〕

### 1. グロリオサ

- 1) アザミウマ類の発生は4～5月に多かった。また、防除回数の少ない球根養成期間にはほ場内の密度が高まる傾向が見られた(図1、2)。
- 2) 球根養成が終了し、残さを引き上げるとほ場内の密度が急激に下がった(図1、2)。
- 3) 野外におけるアザミウマ類の発生は、ほ場内と同様に4～5月に多かった。さらに、11月にも発生が多かった(図3)。
- 4) 発生していたアザミウマ類の98%以上がミカンキイロアザミウマであった(データ省略)。
- 5) 粘着シート1枚あたりのアザミウマ類平均捕殺頭数は黄色が85.2頭/7日、青色が75.8頭/7日であった(データ省略)。
- 6) ミカンキイロアザミウマのロディー乳剤、スピノエース顆粒水和剤、ディアナSC、アグリメック、アフーム乳剤、リーフガード顆粒水和剤、ハチハチ乳剤、ベネビアODおよびブレオフロアブルに対する感受性が低下していた(表1)。

### 2. 宿根アスター

- 1) アザミウマ類の発生は4～6月に多かった(図4、5)。発生していた主な種はモトジロアザミウマ、クロゲハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマであった(データ省略)。
- 2) タバココナジラミの発生は7～8月に多い傾向であった(図4、5)。
- 3) ナミハダニは断続的に発生したが、その密度は低かった(図4、5)。
- 4) ナミハダニのアフーム乳剤、コロマイト乳剤、コテツフロアブル、マイトコーネフロアブル、サンマイトフロアブル、ダニトロンフロアブル、スターマイトフロアブルおよびダニサラバフロアブルに対する感受性が低下していた(表2)。

## 〔留意点〕

1. グロリオサに関する調査は‘サザンウィンド’栽培ほ場で行っており、栽培品種が異なると発生する害虫の種や発生消長が異なる可能性がある。
2. 宿根アスターに関する調査は‘ニューピーコック’栽培ほ場で行っており、栽培品種が異なると発生する害虫の種や発生消長が異なる可能性がある。
3. 宿根アスター栽培ほ場Aは、2018年2月にスワルスキーカブリダニの放飼を行っている。

## [評 価]

グロリオサおよび宿根アスターの害虫防除を行う際の基礎資料として活用できる。

## [具体的データ]

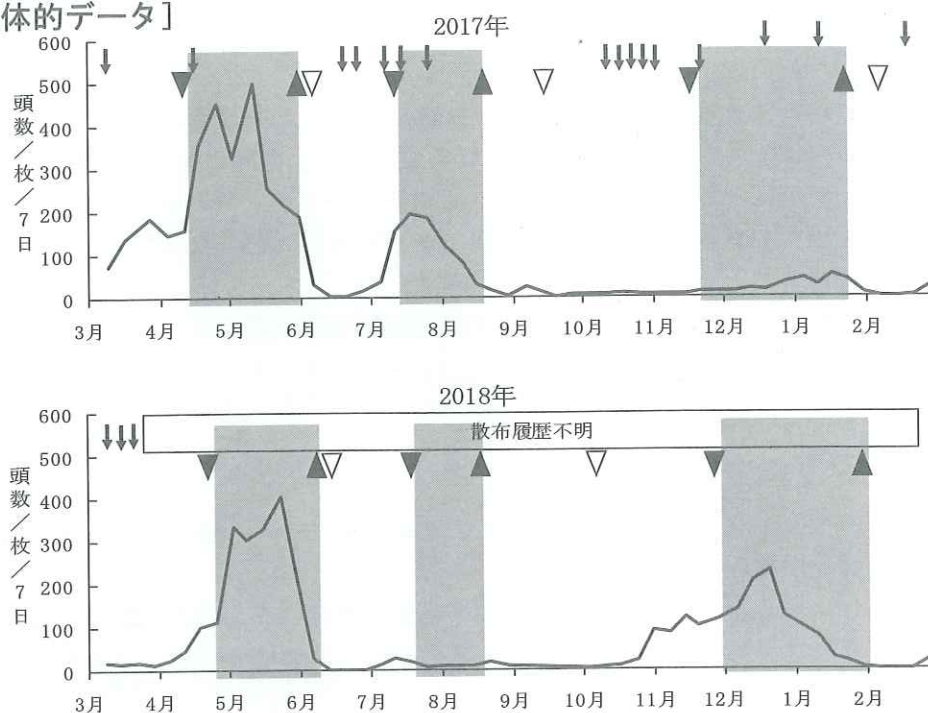


図1 グロリオサほ場Aにおけるアザミウマ類の発生消長(2017~2018)

注1) 調査ほ場：高知市三里(3連棟P0ハウス、5.8a)、側窓；4mm目合いネット、天窓；ネット無

2) 調査期間：2017年3月9日から2019年2月28日

3) ↓はアザミウマを対象とした薬剤散布、▽は定植、▼は収穫、▲は引き上げ、網掛けは球根養成期間を示す。

4) ほ場内に黄色と青色の粘着トラップを各6枚設置し、概ね7日間隔で交換した。

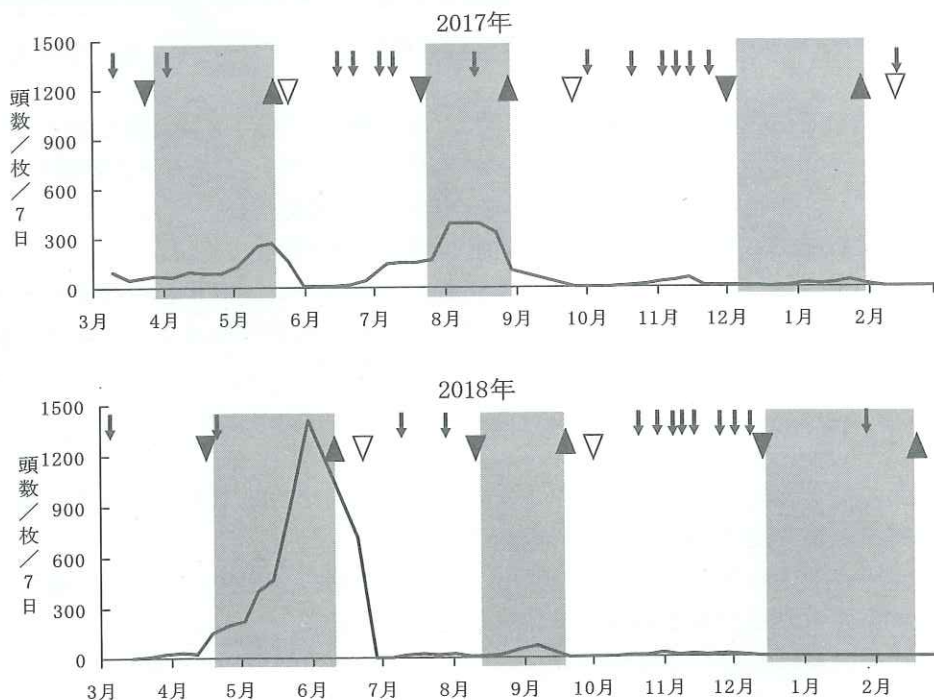


図2 グロリオサほ場Bにおけるアザミウマ類の発生消長(2017~2018)

注1) 調査ほ場：高知市三里(3連棟P0ハウス、5.3a)、側窓；4mm目合いネット、天窓；ネット無

2) 調査期間：2017年3月9日から2019年2月28日



図3 野外におけるアザミウマ類の発生消長(2018)

注1) 調査は場：高知市三里施設グロリオサほ場周辺

2) 調査期間：2018年4月18日から12月6日

3) ほ場周辺に黄色と青色の粘着トラップを各3枚設置し、概ね7日間隔で交換した。

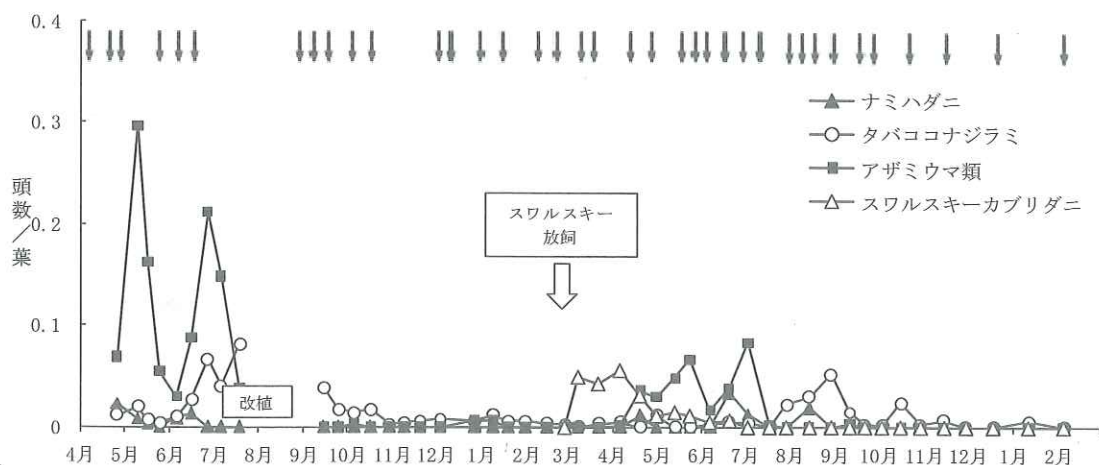


図4 宿根アスターほ場Aにおける主要害虫と天敵の発生消長(2017~2018)

注1) 調査は場：須崎市宿根アスターほ場(P0ハウス、15a)、側窓；0.3×0.6mm目合いネット、天窓；ネット無

2) 調査期間：2017年4月26日から2019年1月11日

3) ↓は殺虫剤の散布を示し、2018年2月27日にスワルスキーカブリダニを放飼

4) 90株につき、1株あたり9葉に生息する害虫および天敵を肉眼で調査した。

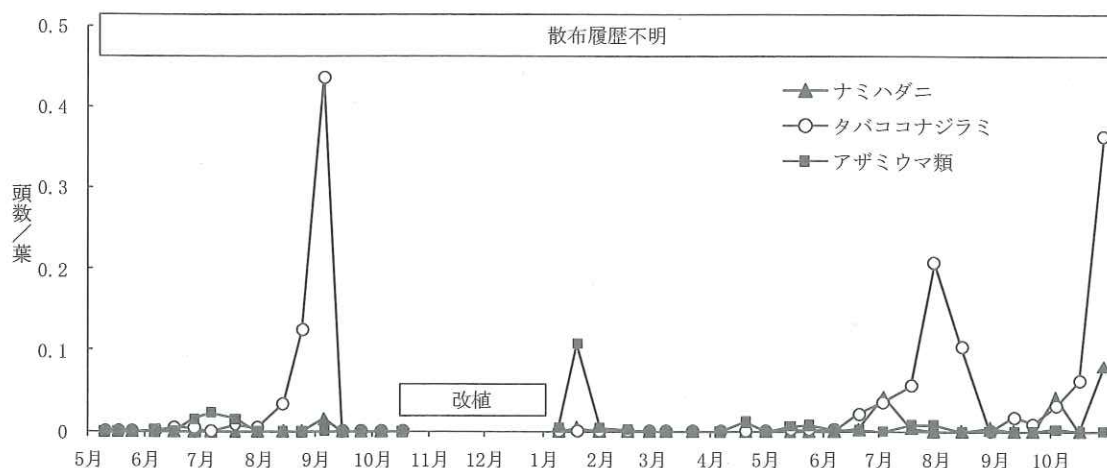


図5 宿根アスターほ場Bにおける主要害虫の発生消長(2017~2018)

注1) 調査は場：須崎市宿根アスターほ場(P0ハウス、15a)、側窓；4mm目合いネット、天窓；ネット無

2) 調査期間：2017年5月10日から2018年10月29日

3) 図4の注4)を参照



表1 グロリオサほ場で採集したミカンキイロアザミウマに対する  
各種薬剤の殺虫効果(高知市) (2017、2018)

| 薬剤名          | IRAC<br>コード | 希釈倍率  | ほ場A  | ほ場B  | ほ場C  | 花き類<br>登録 |
|--------------|-------------|-------|------|------|------|-----------|
| ロディー乳剤       | 3A          | 1,000 | 14.3 | —    | 63.1 | ○         |
| スピノエース顆粒水和剤  | 5           | 3,000 | 5.7  | —    | 22.4 | ○         |
| ディアナSC       | 5           | 2,500 | 34.4 | 26.7 | 73.1 | ○         |
| アグリメック       | 6           | 500   | 66.7 | 83.9 | 34.8 | ○         |
| アフーム乳剤       | 6           | 1,000 | 53.3 | 67.7 | 22.4 | ○         |
| コテツフロアブル     | 13          | 2,000 | —    | —    | 85.7 | ○         |
| リーフガード顆粒水和剤  | 14          | 1,500 | —    | 50.0 | 96.3 | ×         |
| ハチハチ乳剤       | 21A         | 1,000 | 39.4 | 54.5 | 92.8 | ×         |
| ベネビアOD       | 28          | 2,000 | —    | 16.7 | 48.1 | ×         |
| グレーシア乳剤      | 30          | 2,000 | —    | —    | 100  | ×         |
| ファインセーブフロアブル | 未分類         | 1,000 | —    | —    | 100  | ×         |
| プレオフロアブル     | 未分類         | 1,000 | 16.1 | 62.5 | —    | ○         |
| イオン交換水       | —           | —     | 0    | 0    | 6.9  | —         |

注1) ほ場Aは2017年、ほ場BおよびCは2018年に採集した個体群

2) 数字は処理2日後の補正死虫率。イオン交換水のみ死虫率を示す。

3) 正常な歩行が出来ない個体は死虫として計数した。

4) —: 未実施

5) 花き類登録は2020年12月現在

表2 宿根アスターほ場で採集したナミハダニに対する  
各種殺ダニ剤の殺虫効果(須崎市) (2018、2019)

| 薬剤名         | IRAC<br>コード | 希釈倍率  | ほ場A  | ほ場B  | ほ場C  | 花き類<br>登録 |
|-------------|-------------|-------|------|------|------|-----------|
| アグリメック      | 6           | 500   | 100  | 94.9 | 87.0 | ○         |
| アフーム乳剤      | 6           | 2,000 | 67.5 | 56.8 | 25.8 | ○         |
| コロマイト乳剤     | 6           | 1,000 | 93.0 | 43.3 | 54.6 | ×         |
| コテツフロアブル    | 13          | 2,000 | 51.2 | 9.1  | 0    | ○         |
| マイトコーネフロアブル | 20D         | 1,000 | 88.6 | 26.3 | 10.0 | ×         |
| サンマイトフロアブル  | 21A         | 1,000 | 46.7 | 40.9 | 0    | ×         |
| ダニトロンフロアブル  | 21A         | 1,000 | 29.6 | —    | —    | ○         |
| スターマイトフロアブル | 25A         | 2,000 | 29.6 | 32.6 | 0    | ×         |
| ダニサラバフロアブル  | 25A         | 1,000 | 20.2 | 20.5 | —    | ○         |
| イオン交換水      | —           | —     | 2.2  | 2.6  | 14.3 | —         |

注1) ほ場AおよびBは2018年、ほ場Cは2019年に採集した個体群

2) 表1の注2～5)を参照

## 【その他】

研究課題名：周年栽培花き類における害虫類の発生実態の解明と生物的防除法および物理的防  
除法の検討

(平成29年度要望課題 提出機関：須崎農振セ)

研究期間：平成29～31年度

予算区分：県単・国補(内閣府地方大学・地域産業創生交付金事業)

研究担当：昆虫担当、花き担当

分類：情報